

日本看護図書館協会 2012年度第44回研究会報告

第44回研究会は、2012年8月30日(木) 31日(金)の2日間、岩手看護短期大学を会場に開催した。研究会のテーマは、「もっと看護とつながろう 利用者につながるために」、参加者は合計33名であった。

研究会では、講演、講義、事例報告、グループワーク、プロダクトレビューを行った。

1日目は松本つい子氏から「看護職の視点から見た図書館サービス」をテーマに講演をしていただいた。先輩看護職として、学生の勉強や実習の悩みの相談に応じ、図書館司書とは違った面から学生を援助されている。離職しない看護師を育てることを図書館員も留意するようにとお願いされ、最後に「後輩をどうぞよろしくお願いします」と結ばれた。

今回の研究会では、看護学の専門知識を修めようとエビデンスと看護過程について、専門家から話を聞く時間を設けた。

まず、エビデンスについて道又先生の講義を伺った。図書館員に参考になるエビデンスの専門書の紹介があり、その後エビデンスの理論と臨床で実践する基本的な素養などを話された。エビデンスの知識と判断力を養うには、書籍や情報を探すこと、学習することが大事であり、図書館資料は欠かせない。看護師が求める情報を提供できるよう図書館に期待していると述べられた。

続いて、事例報告に入った。特別に予算や人手を組まないで職員の工夫や創意で始めた業務やサービスについて3館から報告していただいた。

秋田看護学校からは、図書展示などのスペースの工夫、レファレンス記録を職員間で情報共有していること、EXCELを利用してOPACを提供していることなど、たくさんの実践例が紹介された。今後の課題はネット利用に対して危機意識が薄い学生の指導、図書や雑誌以外の資料の充実などを挙げられた。

園田学園女子大学は学生へのアンケート調査をして図書を充実させていることを報告された。アンケート結果を学科発注の参考にしてもらったり、実習支援室の図書を増やしたりしている。また、学生の選書ツアーもして図書の充実を図っていることが話された。今後も継続してアンケートを実施し、利用者のニーズを把握に努めるということである。

長野県看護協会図書室では、協会に研修に来る人を図書館利用者に変える、図書室を気づかせる、そのため掲示板や図書の紹介メッセージ、図書の配架について、いろいろな仕掛けをしていることが紹介された。利用者に読んでもらおうとメッセージは手書きにしている。その他、遠方からの利用者への手厚いサービス、県内各地での講習会や研修会に出席し図書室の知名度を上げるように努めている。

3つの図書館(室)からは利用者を図書館に呼び込む、関心をもってもらう、また、利用者に自分たちのニーズを満たしてくれる、そういう気持ちを持ってもらえるように、日常の地道な工夫や試みが紹介され、参加者には参考やヒントになるものが多かった。

2日目はプロダクトレビューから始めた。賛助会員3社から電子リソース管理ツール、

医中誌 Web 版 Ver.5 の新機能、文献管理ソフトなどの最新情報が提供された。

グループワークは予算や人手をかけないでやってみたいまたは実際に行っているサービスについて話し合い、その中から3つをキーワードにして各グループから発表してもらった。ポイントカード、オンデマンド講習会、ビブリオバトル、つぶボード、人力勝負などのキーワードで発表があり、フロアとの質疑応答が活発に行われた。

午後からは、2回目の看護の専門知識を修得する時間として、相馬先生から看護過程について講演していただいた。1人の患者さんの事例を通じて、問題解決にむけた看護過程の各プロセスの理論を解説された。看護に必要な3つの要素として、知識・態度・技術を挙げられ、心のかよった思いやりのある看護は変わらないし、質の高い看護を提供していくには看護過程は必要であると述べられた。

研究会の最後は、岩手看護短期大学図書館から東日本大震災被災地の復興活動の報告を伺った。図書館は地震直後はやることが見つからなかったが、大槌町に対して、子供たちの読書環境復興支援、住民への医療健康情報の提供活動を行った。被災地へ必要な知識・情報の提供、心を癒すものの提供、被災資料の修復・保存など、災害時における図書館の役割について語られた。

今年も交流を深めるため参加者には自館 PR ポスターを提出してもらい、研究会期間中会場に展示した。

研究会全般について、参加者へのアンケート（回答者19人）から、「大変有意義だった」が13人、「有意義だった」が2人、「無回答」が4人とおおむね好評だった。

研究会は、事例・研究報告や主題知識の習得に加え、他の図書館員との交流や自館に有益な情報やヒントを得る場ともなる。会員の資質向上、各館の図書館運営やサービス向上の一助になればと思う。

会場の岩手看護短期大学図書館の方々には、準備から研究会期間中にいたるまでいろいろとお世話とご配慮を賜った。研究会を無事に終えることができ、会場校のご尽力に心より感謝とお礼を申し上げたい。また、講師の方々や参加して下さったみなさんにもお礼申し上げたい。

8月30日（木）

12:30-13:00 受 付

13:00-13:15 開 会

会場校挨拶：岩手看護短期大学 小川英行学長

理 事 挨拶：中村敬仁教育・研究担当理事

13:15-14:15 講演(1) 看護職の視点からみた図書館サービス

仙台徳洲看護専門学校図書室 松本ついで子氏

14:15-15:45 講 義 ケアの根拠を学び実践するすべ

杏林大学医学部付属病院看護部 看護部長 道又元裕氏

- 15:45-16:00 休 憩
- 16:00-17:00 事例報告
- (1)より良い図書館をつくるために 秋田市医師会立秋田看護専門学校
 図書室の取り組み 秋田市医師会立秋田看護学校
 図書室 司書 三浦光子氏
- (2)日常における情報収集について アンケート調査による情報収集
 園田学園女子大学図書館 灘井雅人氏
- (3)紹介します！長野県看護協会図書室
 公益社団法人長野県看護協会 桜井麻衣子氏
- 17:00-17:30 図書館見学
- 18:00 懇 親 会

8月31日(金)

- 09:00-09:30 受付・企業展示
- 09:30-10:15 プロダクトレビュー
 EBSCO Publishing 日本事務所、NPO 医学中央雑誌刊行会、株式会社

サンメディア

- 10:15-11:45 グループワーク
- 11:45-12:45 昼食・企業展示
- 12:45-13:30 グループワーク発表・意見交換
- 13:30-14:30 講演(2) 看護過程とは何か
 岩手看護短期大学 教授 相馬一二三氏
- 14:30-15:00 活動報告 東日本大震災復興支援活動からの報告
 岩手看護短期大学図書館 講師 三田弥生氏
- 15:00 閉 会
 解散